

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概 要
(著書(欧文)) 1.				
(著書(和文)) 1. 『図書館情報学研究 文献要覧1991～ 1998』	共著	2008年1月	日外アソシエーツ	1991～1998年の8年間に日本国内で発表された図書館・情報学分野の研究書、雑誌論文を網羅的に収集し、体系化した文献目録を作成した。文献目録を作成する際にあたっては、図書館を取り巻く状況が反映されるよう項目を検討した。 共著者：山本順一、名城邦孝、松戸宏予、中山愛理、 <u>田嶋知宏</u> 、坂本俊、堰向志保、石井大輔 750p. (共同執筆につき担当部分抽出不可能)
2. 『学校経営と学校図書館』第2版	共著	2008年8月	学文社	司書教諭科目のひとつである「学校経営と学校図書館」のためのテキストである。執筆担当部分は、世界の学校図書館の歴史及び、図書委員達の成長についてである。世界の学校図書館の歴史では、日本の学校図書館に大きな影響を与えてきたアメリカの学校図書館の歴史を中心にイギリスやドイツ、カナダの学校図書館の歴史についても言及を行い、解説した。図書委員達の成長は、学校図書館を舞台に活躍する児童生徒の課外活動について、司書教諭がどのように支援の視点からまとめた。 共著者：山本順一、若松昭子、安藤友張、山田美幸、後藤敏行、 <u>田嶋知宏</u> 、中山愛理、篠原由美子、松戸宏予、稲井達也、山口真也、吉田肇吾、川戸理恵子、野口武悟、石川賀一、松崎博子、二村健 執筆箇所p. 35-42、p. 146-150.
3. 『図書館情報学研究 文献要覧1999～ 2006』	共著	2009年1月	日外アソシエーツ	1999～2006年の7年間に日本国内で発表された図書館・情報学分野の研究書、雑誌論文を網羅的に収集し、体系化した文献目録を作成した。文献目録を作成する際にあたっては、図書館を取り巻く状況が反映されるよう項目を検討した。また、図書館情報学隣接の読書科学や文書館学の文献についても加えた。 共著者：山本順一、名城邦孝、松戸宏予、中山愛理、 <u>田嶋知宏</u> 、坂本俊、堰向志保、石井大輔 1010p. (共同執筆につき担当部分抽出不可能)

4. 『教育改革の動向と学校図書館』	共著	2012年4月	八千代出版	<p>学校図書館を取り巻く現状を平易に解説した図書である。本書の中で、8章「多様化する図書館メディアと選択方法」及び10章「著作権教育への対応（著作権法）」を担当した。多様化する図書館メディアと選択方法では、印刷メディアから電子メディアまで多様なメディアを学校図書館へ導入していく視点を示した。著作権教育への対応では、著作権を踏まえながら、著作物を教育活動の中で活用していく考え方を示した。</p> <p>共著者：坂田仰、河内祥子、黒川雅子、中山愛理、田中洋、山田知代、鈴木章、<u>田嶋知宏</u>、関口ひろみ、小桐間徳、森本哲也、森口愛子、金本佐紀子</p> <p>執筆箇所p. 121-132, p. 145-156.</p>
5. 『図書・図書館史』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望）	共著	2014年2月	学文社	<p>図書・図書館史のなかで、13章2節のアーカイブの歴史について担当した。アーカイブというものの定義を行ったうえで、世界における古代から現在までのアーカイブの理論及び施設の変遷について説明するとともに、日本のアーカイブ施設の状況についても言及を行った。</p> <p>共著者：千錫烈、竹之内禎、竹之内明子、吉田隆、大井奈美、森智彦、鈴木亮太、坂本俊、二村健、中山愛理、<u>田嶋知宏</u>、中林幸子、西田洋平、片山ふみ、野口康人</p> <p>執筆箇所p. 83-84, 87.</p>
6. 『情報資源組織演習』（講座図書館情報学）	共編著	2016年9月	ミネルヴァ書房	<p>図書館における情報資源の整理方法（13章～20章）について、新たな知見を盛り込みつつ詳述した。また、図書館で扱われる情報資源の整理に関して、実践演習するための課題（30章）、図書館に関わるコラムを執筆した。</p> <p>共著者：竹之内禎、長谷川昭子、西田洋平、<u>田嶋知宏</u>、坂本俊、吉田隆、新藤透、須永和之、江草由佳、佐々木宗雅、岡野裕行、河島茂生、鈴木亮太、藤倉恵一</p> <p>執筆箇所p. 168-235, 294-301.</p>
7. 『情報サービス演習』（講座図書館情報学）	共著	2017年1月	ミネルヴァ書房	<p>図書館を活用した情報資源の探索方法について系統立てて修得できるように解説（10章）するとともに、図書館による情報発信方法（14章）について、最新の知見や取り組みを踏まえつつ述べた。</p> <p>共著者：中山愛理、山田美幸、川戸理恵子、石井大輔、川瀬康子、名城邦孝、坂本俊、<u>田嶋知宏</u>、石川賀一</p> <p>執筆箇所p. 150-167, 210-224, 244.</p>

8. 『学校図書館への招待』	共著	2017年6月	八千代出版	<p>学校図書館関係者及び司書教諭について学ぶ学生向けに学校図書館の基礎的事項をまとめたものである。本書の中で第4章「学校図書館運営と人的資源」、第5章「学校図書館運営と物的資源」を担当した。そこでは、学校図書館の物的資源、人的資源の特徴と運営上の位置づけをそれぞれの視点から論述した。</p> <p>共著者：坂田仰、河内祥子、今井福司、山田知代、<u>田嶋知宏</u>、金本佐紀子、岩崎千恵、藤原是明、中山愛理、鈴木章、佐伯まゆみ 執筆箇所p. 37-47, 61-72.</p>
9. 『学校図書館への招待』第2版	共著	2020年5月	八千代出版	<p>本書の第4章「学校図書館運営と人的資源」、第5章「学校図書館運営と物的資源」の学校図書館の運営に関わる人材及び施設・備品などの在り方について、国などの最新の方針を踏まえつつ内容改訂を行った。</p> <p>共著者：坂田仰、河内祥子、今井福司、山田知代、<u>田嶋知宏</u>、金本佐紀子、岩崎千恵、藤原是明、中山愛理、鈴木章、佐伯まゆみ 執筆箇所p. 35-45, 59-70.</p>
10. 『情報メディアの活用』新訂	共著	2022年6月	放送大学教育振興会	<p>学校図書館の司書教諭向けに情報メディアの活用について最新の動向及び基本的な方向性を示したものである。本書の第1章「教育・学校における情報メディアの活用と学校図書館」、第2章「日常生活と学校にみる情報メディア活用の差と課題」。第4章「多様化する情報メディアと選択方法」、第11章「教育の情報化と情報リテラシー教育」、第12章「情報モラル・情報セキュリティに関わる諸課題」、第13章「情報メディアの多様化に合わせた著作物との関わり方」、第15章「学校図書館を念頭においた情報メディアの活用に向けて」を執筆した。</p> <p>共著者・高織裕樹 田嶋知宏</p>
(学術論文(欧文)) 1.				
(学術論文(和文)) 1. アーカイブズにおけるレファレンスサービス	単著	2006年12月	情報社会試論 No. 11	<p>日本のアーカイブズ施設で実施されているレファレンスサービスについて、ウェブページを通じた情報発信、レファレンスサービスの状況と訪問調査を通じて明らかとした。その結果、レファレンスサービスについての取り組みが一定程度実施されていること、重要なサービスであると認識されていることが明らかとなった。</p> <p>掲載箇所p. 81-101[査読有]</p>

2. 「図書館におけるガイダンス動画の制作と初年次教育科目での活用」	単著	2020年8月	大学図書館研究, 115 巻	本稿では、「情報収集検索ガイダンス」動画制作に至る背景及び、動画コンテンツの概要を踏まえ、初年次教育科目における動画活用の実例を示し、図書館制作動画の授業における活用の効果と課題を考察した。その結果、授業内容に応じた動画の選択が可能となる利点や繰り返して視聴できる動画の効果とそれを維持管理していくためのコストバランスを考慮していく必要を指摘した。 掲載箇所p. 2070-1-2070-10「査読有」
(紀要論文) 1. 日本における図書館と文書館の関係のあり方について	単著	2004年3月	横浜市立大学学生論集、第43号	日本の図書館と文書館の関係のあり方を図書館における文書館資料の位置づけや取り扱いの変遷から検討した。また、図書館と文書館の設置に関わる法令や職員養成などの視点から比較検討した。その結果、図書館において文書館の特性を認識したうえで、文書館資料の取り扱いや文書館との協働に向けた方向性を提言した。 掲載箇所p. 131-164. [査読無]
2. 機能別評価選別による行政文書の評価と選別ー内閣府男女共同参画局を事例としてー	単著	2007年10月	北の丸、第40号、国立公文書館	本稿は、どのような記録を残すかを判断するプロセスのひとつである、機能別評価選別(マクロ評価)の有効性を検討したものである。そのために、機能別評価選別で先進的とされるオーストラリア連邦で採用されているDIRKS方法論の特徴を日本との比較で明らかとした。そのうえで、日本への有効性を検討するため、DIRKS方法論のマニュアルにしたがい、内閣府男女共同参画局の行政文書の評価選別を試みた。 掲載箇所p. 111-88. [査読無]
3. デジタル環境下の文書館における学習活動支援の現状と課題	単著	2008年3月	八洲学園大学紀要、第4号	本稿では、デジタル環境下の文書館における学習活動支援の現状について、ウェブサイトの調査を通じて把握し、課題を分析した。その結果、デジタルアーカイブズについては、いまだ多くのところで整備されていない状況が明らかとなった。現状のデジタルアーカイブズの未整備の課題を解決するとともに、利用者が資料を容易に扱えるような知識について、ウェブサイトを通じて提供していくことが必要であると向かうべき方向性を示した。 掲載箇所p. 89-98. [査読有]
4. 行政文書の評価選別に寄与する日本版機能別評価選別マニュアル(素案)作成の試み	単著	2008年12月	北の丸、第41号、国立公文書館	本稿では、公文書館などの保存施設に移管する対象となる行政文書を評価選別するための方法論を諸外国の事例を参考に検討した。そのうえで、日本の現状に合わせて導入可能な行政文書の評価選別方法を提示した。 掲載箇所p. 103-82. [査読無]

5. ネットワーク時代のアーカイブズ機関における利用サービスの在り方とは—利用サービスに関する規則・規定の視点から—	単著	2009年2月	京都大学大学文書館研究紀要、第7号	本稿では、オンラインを通じたアーカイブズにおける「利用に関する規則・規程」を題材として、デジタルアーカイブズやオンラインを通じたサービスにどれだけ対応しているのか分析した。その分析を通じて、日本のアーカイブズ機関がどれだけオンラインを通じた非来館型サービスに対応しようとしているのか—その姿勢を明らかとするとともに、今後対応していくべき点を指摘した。掲載箇所p. 39-53. [査読有]
6. 適切な行政文書の評価選別を目指して—調査研究に基づき—	単著	2009年10月	北の丸、第42号、国立公文書館	本稿は、オーストラリアなどにおいて取り込まれている機能別評価選別の状況を踏まえながら、行政文書の評価選別にその評価選別の手法を用いることについて検討した。オーストラリアでは、機能別評価選別の取り組みに困難が見られる状況が確認された。オーストラリアでは、評価選別のための手法が複雑で、多くのリソースを費やす必要があることが取り組みを困難にさせた理由として考えられた。この課題を踏まえつつ、『日本版機能別行政文書評価選別マニュアル(試案)』及び『日本版行政文書評価選別の基本方針(試案)』という2つのマニュアルについて検討した。その結果、2つのマニュアルの適用するための目的は全く異なっていることを確認した。掲載箇所p. 73-64. [査読無]
7. アーカイブズ施設における利用促進の取り組みと利用者への適合性—都道府県のアーカイブズ施設を中心に—	単著	2011年3月	青森中央短期大学研究紀要、第24号	本稿は、地方公共団体の設置するアーカイブズ施設における利用促進の取り組みの方法論と利用対象者の関心・知識・スキルとの適合性を検討した。その結果、本来必要とされるアーカイブズ施設を認識していない利用対象者がアーカイブズ施設の存在や資料に接触できるような取り組みが行われていないことが明らかになった。掲載箇所p. 3-11. [査読有]
8. 青森県内公共図書館の活動と推移1979-2010—新聞記事を中心に—	単著	2012年3月	青森中央短期大学研究紀要、第25号	本稿は、青森県内公共図書館の活動推移を明らかにすることを目的として、新聞記事からを用いて分析した。その結果、新聞記事数は、青森県内の公共図書館活動の状況を反映していた。町村の図書館では開館から5年を経過すると記事数が激減する傾向がみられるが、市部の図書館では一定の記事数が確認された。青森県内公共図書館に関する記事からは、比較的活発な市部の図書館活動と変化が激しい町村の図書館活動が明らかになった。掲載箇所p. 1-8. [査読有]

<p>9. 青森県における公共図書館数の変化とその背景</p>	<p>単著</p>	<p>2013年3月</p>	<p>青森中央短期大学 研究紀要、第26号</p>	<p>本稿は青森県内公共図書館の数の変化を踏まえたうえで、増加が顕著にみられた4つの時期について、各図書館の設置経緯を分析した。その結果、1つ目の明治期は既存蔵書の活用、有志による読書活動、通俗教育を目的として設置が始まった点が確認された。2つ目の大正期は、青森県の補助金政策によって一時的な図書館数の急増をみるものの、戦時体制下で激減した点が確認された。3つ目と4つ目の戦後は、献本運動などを通して図書館を求める声が出されても、厳しい財政によって公民館図書室で代替する自治体が多く、国の補助金や重点事業として予算配分され、図書館数が増加した点が確認された。 掲載箇所p. 1-10. [査読有]</p>
<p>10. レコード・マネジメントとアーカイブス・マネジメントの統合的把握—情報の加工と記録の加工の視点から—</p>	<p>単著</p>	<p>2019年3月</p>	<p>人間科学、36巻2号</p>	<p>本稿は、レコードマネジメント及びアーカイブズマネジメントの統合的な把握の可能性について、情報加工・記録加工の観点から検討した。そのために、レコードマネジメント及びアーカイブズマネジメントの各プロセスにおいて、情報加工・記録加工がどのように行われているのかを分析した。レコードマネジメント及びアーカイブズマネジメントには、法令・技術・人々のニーズが影響を与えていた。また、アーカイブズマネジメントのメタ次元は、新たなレコードマネジメントプロセスの開始とみなすことで、両者を結びつけて統合的に捉えることが可能となった。 掲載箇所p. 55-69. [査読有]</p>
<p>11. アメリカにおける州アーカイブズの設立と発展—歴史協会の果たした役割から—</p>	<p>単著</p>	<p>2019年9月</p>	<p>人間科学、37巻1号</p>	<p>本稿は、アメリカにおける州アーカイブの設立と発展に対する歴史協会の果たした役割について考察した。アメリカの植民地時代以来、歴史協会は歴史文書を保存するために設立され活動してきた。その後、歴史協会は州の歴史文書を保存することに関心をもち、州の歴史文書を保存する運動を展開した。これらの事例をもとに、以下の3つの役割が確認されました。第1に、歴史協会は文書保存の重要性を指摘したこと、第2に、歴史協会は文書の収集と管理のために施設の設立を働きかけたこと、第3に州公文書館の先導役になる事例が歴史協会で見られたという点が確認された。 掲載箇所p. 59-74 [査読有]</p>

<p>(辞書・翻訳書等)</p> <p>1. 『図書館情報学用語辞典』第4版</p> <p>2. 『図書館人物事典』</p> <p>3. 『図書館情報学用語辞典』第5版</p>	<p>共著（日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編）</p> <p>共著（日本図書館文化史研究会編）</p> <p>共著（日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編）</p>	<p>2013年12月</p> <p>2017年12月</p> <p>2020年8月</p>	<p>丸善</p> <p>日外アソシエーツ</p> <p>丸善</p>	<p>図書館情報学の専門用語辞典に、新たに採録された「MLA連携」及び「デジタルアーカイブ」の項の執筆を行った。掲載箇所p. 20, 160.</p> <p>図書館に関わる主要人物の経歴や活動についての人物事典に、「一戸岳逸」、「伊東善五郎」、「北村益」、「福士百衛」、「南部栄信」、「湊要之助」、「三橋三吾」、「横山武夫」、「吉岡龍太郎」、「外崎覚」、「小野正文」、「間山洋八」、「佐藤勝雄」、「菊池幸次郎」、「チャールズ・マッカーシー」の項目を執筆した。掲載箇所p. 25-26, 28, 72, 91, 95, 127, 189, 206-207, 230, 253, 257, 288-289, 318.</p> <p>図書館情報学の専門用語辞典の第5版で新たに「ダークアーカイブ」の項目執筆を行った。掲載箇所p. 20, 145-46, 162.</p>
<p>(報告書・会報等)</p> <p>1. 諸外国の公共図書館に関する調査報告書</p> <p>2. 電子記録の保存に気をつけるために（書評）</p>	<p>共著</p> <p>単著</p>	<p>2005年3月</p> <p>2006年6月</p>	<p>文部科学省これからの図書館の在り方検討協力者会議（株式会社シー・ディー・アイ受託調査）</p> <p>月刊ホームルーム 2006年6月号</p>	<p>イギリスの公共図書館の現状と運営実態についての調査を行った。具体的には、イングランド、ウェールズ、スコットランド、北部アイルランドの各地域について、人口や面積などの基礎的な情報とともに、図書館法、図書館行政、図書館数、蔵書数や予算などの図書館運営の状況、貸出しや多文化サービス、インターネットを通じたサービスなどの図書館サービスの状況について調査し、報告書を作成した。 共著者：田嶋知宏、中山愛理 担当箇所p. 99-p. 130. （共同調査研究につき本人担当部分抽出不可） 学校教職員向けの雑誌に掲載した『電子記録のアーカイビング』についての書評である。コンピュータなどを用いて作成される電子的な記録の保存や活用について、学校現場における視点から論評した。執筆箇所p. 63.</p>

3. 放送ライブラリー見学について	単著	2006年7月	RMSJ News Letter No. 35	神奈川県横浜市に所在する放送ライブラリーの見学会を行った際の手記である。放送局の番組やテレビコマーシャルなどの映像を保存・公開する施設である放送ライブラリーの概要とともに、設備、テレビ映像の収集体制、著作権処理の状況について、見学に基づき、簡潔にまとめた。執筆箇所p. 8-10.
4. 図書館情報学リテラシー教本【試作版】	共著	2007年2月	筑波大学 図書館情報リテラシー研究会	第2講「情報追跡の基礎的技法」 大学生向けの情報リテラシー教育のためのテキストとして、専門機関のウェブサイトから発信される情報を探索し、適切なものを収集することができる方法について、事例を挙げながら解説した。また、専門機関の情報を探索する演習問題を付けた。 p. 33-p. 50. 田嶋知宏、坂本俊、松本圭以子 第7講「筑波大学附属図書館Webページ(3)」 大学図書館を通じて提供されている電子ジャーナルについて、その特徴や電子ジャーナルの検索方法を具体的な事例に基づき解説した。また、無料で利用できるフリージャーナルについても解説を行った。 p. 143-p. 167. 田嶋知宏、千錫烈
5. 図書館情報学リテラシー教本【2007年版】	共著	2007年11月	筑波大学 図書館情報リテラシー研究会	第2講「情報追跡の基礎的技法」 『図書館情報学リテラシー教本 試作版』の内容をウェブサイトの更新に合わせて改訂するとともに、よりわかりやすい事例に全面改訂を行った。 p. 33-p. 52. 坂本俊、田嶋知宏、高瀬洋子、松本圭以子 第7講「筑波大学附属図書館Webページ(3)」 『図書館情報学リテラシー教本 試作版』の内容を電子ジャーナルの更新に合わせて改訂するとともに、よりわかりやすい事例に全面改訂を行った。また、演習問題についても、全面的な改訂を加えた。 p. 149-p. 174. 田嶋知宏、千錫烈
6. 学校図書館を活かす! 処方箋 (書評)	単著	2008年3月	月刊生徒指導 2008年3月号	学校教職員向けの雑誌に掲載した『学校図書館の光と影』についての書評である。学校図書館を取り巻く現状を踏まえたうえで、司書教諭のみならず、一般の教職員が学校図書館を活かすという視点から論評した。執筆箇所p. 101.



7. 図書館を活用することとは	単著	2009年3月	朝比奈大作先生退官 記念文集	本稿は、市民による図書館の活用が、図書館から情報を入手することに限定されるのかという点を検討した。その結果、市民による図書館の活用は、図書館から情報を入手することに限定されないことが明確になった。執筆箇所p. 44-48.
8. 知識と「資格」とを結び付けて判断するために	単著	2014年11月	一夏会報	本稿は、司書講習受講者向けに発行されている会報に司書講習で学んだ知識をどのように活かしていくべきかをのべたものである。執筆箇所p. 3.
9. 『これからのアーキビスト：デジタル時代の人材育成教育入門』（書評）	単著	2015年6月	日本図書館情報学会誌 Vol. 61, No. 2	デジタル化された資料や空間で、資料を整理、保存する専門職であるアーキビスト人材教育論を論じた図書の本書評である。育成すべきアーキビスト像が不明瞭である点を指摘した。掲載箇所p. 125-126.
10. 日本アーカイブズ学会2017年度大会に参加して	単著	2017年12月	アーカイブズ学研究 No. 27	学会の参加期として、アーカイブズ学に関わる近年の研究動向について紹介するとともに、今後の展望を述べた。掲載箇所p. 100 - 104.
11. 司書教諭養成の次なる地平に向けて	単著	2019年3月	日本図書館協会 図書館情報学教育部会 会報、第124号	学会の参加期として、アーカイブズ学に関わる近年の研究動向について紹介するとともに、今後の展望を述べた。掲載箇所p. 15.
(国際学会発表) 1.				
(国内学会発表) 1. アメリカにおけるアーカイブズ利用サービスに関する歴史的検討	単著	2005年4月24日	日本アーカイブズ学会2005年度大会	本発表では、主としてアメリカの州におけるアーカイブズ利用サービスの変遷に焦点をあてて検討した。アーカイブズの利用サービスは、社会の要請や情報通信技術の高度化に合わせて多様化してきた。アメリカの州立アーカイブズ利用サービスの変遷からは、「利用サービス拡大の方向性」や「利用者像の変化」、「アーキビストの役割の変化」という3つの特徴が見出された。

<p>2. アメリカの州アーカイブズとレコードマネージメントー州歴史協 (State Historical Society) の位置づけに着目してー</p>	<p>単著</p>	<p>2006年4月23日</p>	<p>日本アーカイブズ学会2006年度大会</p>	<p>本発表で取り上げたアメリカには、歴史的な事業を中心に活動する歴史協会が存在する。その中には、州歴史協会が、州のアーカイブズを兼務する事例も見られる。本発表では、州歴史協会の担うアーカイブズ業務の位置づけや現用文書の管理との関係を検討した。州歴史協会の多くは、州アーカイブズの責務を担うとともに、州歴史記録委員会などを通じて、レコードマネージメントと繋がりを持っていることが明らかとなった。</p>
<p>3. アーカイブズにおけるサービス業務の検討ー記録という情報に着目して</p>	<p>単著</p>	<p>2007年6月8日</p>	<p>記録管理学会2007年研究大会</p>	<p>本発表は、アーカイブズにより受け入れられた記録が、情報としてどのような加工を受け、流通していくかを整理した。それにより、記録管理とともに、記録という情報を加工するアーカイブズの役割を検討した。その結果、アーカイブズの役割は、情報加工を行うことによって、アーカイブズが永続的に情報として、モノとして利用可能かつ、証拠等の効用をもたらす諸条件を確保し、サービス業務を円滑にすることであると結論付けた。</p>
<p>4. アーカイブズ機関における利用サービスの規定とその特徴</p>	<p>単著</p>	<p>2008年6月30日</p>	<p>情報メディア学会第7回研究大会</p>	<p>本ポスター発表では、日本のアーカイブズ（公文書館）における資料提供サービスの現状をサービスの方法や時間などから検討した。複数のアーカイブズの状況を取りまとめ、比較することで、その特徴を把握するとともに、アーカイブズのサービスの方法や利用の仕方に影響を及ぼす利用規則について検討した。</p>
<p>5. 短期大学における初年次教育の位置づけと方法ー2種類の授業・オリジナルテキストと学生のルーブリックによる自己評価を結びつけて</p>	<p>単著</p>	<p>2010年9月12日</p>	<p>初年次教育学会第3回大会</p>	<p>本報告は、短期大学における初年次教育課題を踏まえた上での取り組みを取りあげる。短期大学は、初年次前期から専門科目を多く履修することになる。そのため、専門科目を学んでいくために必要な基礎的な学びの技法を入学後早い時期に身に付ける必要がある。これら課題に対応するための実践をもとに報告した。</p>
<p>6. 歴史協会図書館の機能と役割：ウィスコンシン歴史協会図書館とルーベン・ゴールド・スウェーツを事例として</p>	<p>単著</p>	<p>2010年10月10日</p>	<p>日本図書館情報学会第58回大会</p>	<p>本報告では、歴史協会図書館の機能と役割を明らかにするため、ウィスコンシン歴史協会図書館で取り組まれた資料の収集・利用者の拡大とそれを支えたルーベン・ゴールド・スウェーツの思想や活動を検討した。その結果、ウィスコンシン歴史協会図書館改革の背景には、公教育を重視する思想の存在が確認されたと報告した。</p>
<p>(演奏会・展覧会等) 1.</p>				

(招待講演・基調講演) 1. 地域とつながる公共図書館～多様なサービスを通じて～	個人	2012年11月19日	平成24年度図書館地区別(北日本)研修	アメリカの公立図書館を例に取りつつ、図書館サービスが地域の人びとの暮らしと結び付いている状況を踏まえたうえで、今後図書館サービスを推進していく際に求められる点を講演した。
(受賞(学術賞等)) 1. 最優秀ポスター発表賞	個人	2008年6月30日	情報メディア学会	情報メディア学会第7回研究大会におけるポスター発表及びプレゼンテーションに対して、参加者の投票により最優秀ポスター発表賞が授与されたもの。

研 究 活 動 項 目

助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等の別	種 類	採択年度	交付・受入元	交付・受入額	概 要
(科学研究費採択) 1.						
(競争的研究助成費獲得(科研費除く)) 1. アーカイブズにおけるサービス構造の検討 -記録という情報に着目して-	代表	記録管理学会2006年度研究助成	2006年度	記録管理学会	50,000円	「アーカイブズにおけるサービス構造の検討 -記録という情報に着目して-」というテーマでアーカイブズにおけるサービスと情報の関係について検討を行うために拳銃助成を受けた。その助成をもとにして、アーカイブズでは、サービスを行うために、種々のと情報の加工が行われていることを明らかにした。
(共同研究・受託研究受入れ) 1.						
(奨学・指定寄付金受入れ) 1.						
(学内課題研究(共同研究)) 1.		—		—		
(学内課題研究(各個研究)) 1.	—	—		—		
(知的財産(特許・実用新案等)) 1.	—			—	—	